

職場の男女共同参画について 職員の声1*

森林総研は働きやすい職場になってきていると思います。日本全体がそうなってくればよいと思います。夫婦とも働きやすくなければ、どちらかに負担が行きます。

変化を阻む粘土層と呼ばれないよう、マインドセットが大事！

共働きが当たり前の現代。家庭において助け合いができていますか・・・？
(我が家はありがたいことにできています)

家に帰ると第2の仕事(家事、育児、介護)が待っている。

家が遠いのもあって、自宅に帰るとなかなか育児に積極的に関われない。妻には申し訳なく思うけど、どうしたらよいのでしょうか？！

みんな自分らしく無理をしないで仕事ができるようになってほしいです。

毎日仕事して、帰って家事、育児して、たまにはゆっくりしたい。

「ダイバーシティ」って生物多様性に通じるかも？

家事の分担は必須です。夫より息子の方が頼れるようになりました。

「良かったら手伝おうか？」「言ってくれたらやるよ」と、女性が男性に言うようになってやっとスタート(逆転?)ですね。

仕事と介護の両立、介護の比重が日々増していくのがつらいです。

育児に介護が重なって大忙し。どうにかならないものではないのでしょうか・・・。

育児だけでなく、介護の問題も出てきたら、どうして良いかわからなくなると思います。

仕事と家庭の両立は大切です。男性は「家庭」と「仕事」の両立ぐらいのスタンスの方がよいのでは？

S39年生まれ、男です。女性のアイディアに助けられています。

妻、母だって「私」の時間がほしい。

職場の男女共同参画について 職員の声2*

仕事と子育て・介護との両立ができていますか？

夫婦共働きなので、子供が病気になった場合のやりくりが大変。

共働きや子育て中の転勤は厳しい。

任期付研究員の場合、期限があるので子育てと研究のバランスを取ることに苦労している。

非常勤職員の場合、介護休暇は無給になるのでなかなか休暇を取ることができない。

単身赴任や遠距離通勤の場合、子育てにおける配偶者との協力が難しい。

介護が長期にわたる場合など、専門の相談窓口があると助かる。

仕事＋介護で精神的にも経済的にもストレスがかかる。

介護には様々なケースがあるので、制度の把握や情報の収集を行なうことが重要である。

介護に関わる者同士で情報交換や共感したりする場があると有難い。

ワーク・ライフ・バランスを保つために組織として何が必要？

新たな取り組みに対して『失敗してもいいからやってみろ』といった組織全体の気概。

育児や介護での休暇・休業中の業務をサポートする体制（育成やバックアップなど）。

研究部門とサポート部門のさらなる連携による業務の効率化。

研究所としてダイバーシティを推進し、支援する強い意志と姿勢を常に表明し続けていく。

業務量に見合った人員配置で、ゆとりある職場環境を作る。

キャリア形成って何？

研究以外の経験も積むこと。研究者間の交流を活発にする。

対外的な交流の機会を増やすよう本人の自覚を促すこと。また、周囲もそうできるように気を配る。

管理職に対するインセンティブが少ない。管理業務に対する相当の見返りがあれば、なりたいたいと思う人が増えるのではないかなと思う。

子育てによる研究業務への制約があった。管理職になると、さらに制約が大きくなるように思う。

いろいろなポスト／地域を経験する。

専門性の高い分野（情報管理、広報、特許など）はスペシャリストの採用や育成を図る。

管理職登用がいまだに年功序列が基本となっている。管理職のメリットが見えず、余計な仕事が増えて面倒だと思われる。

「管理職」について